

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J1802	松下電工株式会社	FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発	コスト計算まで意欲的に進めてはいるが、廃水・廃棄物の処理コストなどが明確になっていない。	<p>分解液からの分離精製プロセスは、廃水・廃棄物量を最小にするという観点で研究中です(本事業とは別に自社で実施)。具体的には、処理困難物の無機塩を低減するプロセス技術、分離廃水の仕込水への再利用、廃水自体の有価物化等を検討しています。その上で廃水・廃棄物処理コストも含めたトータルコスト評価を実施し、全体最適化を図り、プロセスとしての完成を目指します。</p>
			分離精製技術、排水・廃棄物処理施設等の周辺プロセスの検討が不十分である。亜臨界水分解技術の到達目標に関しては高く評価される。今後、プロセスとしての完成を期待する。	
			未回収物の処理・処分について十分な検討が必要である。	
			排水処理のコストダウン化が大きな課題である。	
			バッチ方式での冷却工程に工夫がみられる。	<p>分解槽自体の外部冷却に加え、排出管路での外部冷却を組み合わせることで冷却時間短縮を実現しました。</p>